



# 言葉の裏には何がある？

R 2 . 4 . 2 7  
こども園さかえ  
編集：三上 茜

友達関係が複雑になってくる4歳児期・・・。友達と一緒に遊ぶ楽しさを知り、誘い合って集団で遊ぶことも増えますが、遊びの中で、自分の思いと友達の思いの違いでぶつかることもしょっちゅうです。でも、子どもは思いがぶつかった時にはじめて、相手が自分と違う考えをもっていることに気が付きます。今回は、ばんび組さんになって見られた子ども達同士のトラブルの例をご紹介します。女の子、男の子バージョンに分けて、今回は女の子のトラブルを紹介します・・・★



## 女の子の場合・・・

女の子のトラブルで多く見られるのは、「一緒に遊ばないって言った！」「〇〇ちゃんが怒った！」というような、いわゆる「口げんか」です。大好きな友達と一緒に遊びたいのに・・・大好きなのに、怒られて悲しい・・・と、話を聞くと皆それぞれちゃんとした理由があるのです。

### 〇ある日のRちゃんとHちゃん〇

この日の帰り間際、HちゃんとRちゃんの泣き声がお部屋に響きました。どうしたのか聞くと・・・

Hちゃん「Rちゃんがズルだって言うてる！」

Rちゃん「だってHちゃんとAちゃんばかり遊んでズルい！」

仲良しのAちゃんとHちゃん、一緒に遊んでいる所に、Rちゃんも入りたかったようです。「するい」の裏には、「2人が仲良しでうらやましい。一緒に遊びたいな」という思いがあったのです。一方、Hちゃんは、Rちゃんも一緒に・・・と思ったのに、「ズル！」と言われたのがなぜなのか分からず「悲しいよ！！」と泣いていたのでした。いつもはここで、

保「Rちゃん、一緒に遊びたかったんだね。でもさ、いきなりズルって言われると、Hちゃんなんだかわからなくて、悲しかったんだって。なんて言ったら、一緒に遊んでくれるかな？」

というような、一緒に「どうしたら良かったのか」を考えられるような声掛けをしています。

しかし、今回は2人の間で話は進んで行ったので、そばで見守ることに・・・♪

Rちゃん「だって！一緒に遊ぼうと思ったのに！」

と、まだ怒りが収まらずに大きな声のRちゃん。

Hちゃん「そんなに怒らないでよ！悲しいよ！」

と、Hちゃんも涙が止まりません。

Hちゃん「昨日、Rちゃんのパパも言ってたでしょ??」

実は、前の日の帰りにもトラブルがあり、お迎えに来たRちゃんのパパが「どんな理由があっても、お友だちが悲しむことはしたらいけないよ」と声を掛けてくれていたそうなのです。Hちゃんのその一言を聞いて、ハッとした様子のRちゃん。少し考えて・・・

Rちゃん「分かったよ・・・。怒ってごめん。遊びたかったんだもん・・・。」

と、落ち着いて伝えることができました。

Hちゃん「じゃああそぼう！！」

こうして、あれよあれよという間に解決し、一緒に遊び出したのです♪

保「え～！！2人でちゃんとお話しできて良かったね！気持ちをわかってもらえると嬉しいね」

という保育者の言葉に、照れ気味の2人でした。(笑)



### ・お互いの気持ちを聞く。 (行動はどうあれ、気持ちは否定しない。)

大人がいったん受け止め、冷静になることで、互いの気持ち、自分の気持ちを知り、整理することができます。

### ・「どうしたら良かったか」を一緒に考える。

ただ「仲良くしなさい」ではなく、どうしたら良かったのかを一緒に考える機会を作ります。

もちろん、今回のようにはなかなか気持ちを切り替えられないこともまだまだあります。言葉の伝え方、捉え方や、気持ちの行き違いなど理由は様々ですが、今のばんびさんはトラブルを介して「自分の気持ち」に気が付き、「他者にも気持ちがあること」を知り、そして自分の気持ちだけを通すのではなく、少しづつ「折り合いを付ける」ことができるようになるための勉強の真っ最中です。「誰とでもケンカしないで仲良くしよう!」ということよりも、「ケンカをしても仲直りすることができる」「困った時は助け合える」ということを感じていけるようにサポートしているところです(\*\_\*お家でも、「〇〇ちゃんがいじわるした!」などと聞かれます。その際、ゆっくりとお話を聞いて「それは「悲しかったね」と受けとめてあげてください(\*\_\*子どもにとって一番の味方はお家の方々。話を聞いてもらえるだけでも少しスッキリするかと思います。お子さんが話される内容の中で、気になることがあればいつでもお知らせくださいと助かります♪